



SDGsに取り組む北海道マラソン

参加記念Tシャツは再生繊維で
ウイニングランでアスリートの舞台実感

SDGs（エスディージーズ）という言葉をよく耳にします。2015年の国連総会で採択された地球での持続可能な開発のための行動計画で、「すべての人に健康と福祉を」など17の世界的目標が掲げられています。北海道マラソンはSDGsに沿った大会となるよう取り組みを行っています。具体的にどんなことがSDGsとして行われるのかを紹介します。

<運動のきっかけを提供します>

=目標3 すべての人に健康と福祉を

2022年大会からフルマラソンの制限時間が5時間から6時間に延長されました。制限緩和でより多くの人が北海道マラソンに参加できます。完走を目指してランニング練習に取り組むことで、健康増進を図ることになります。

<だれもが参加できるマラソン大会>

=目標3 すべての人に健康と福祉を

目標17 パートナリシップで目標を達成しよう

フルマラソンに「視覚障がい者の部」が設けられています。また「はまなす車いすマラソン」が同時開催されます。障がいのある人がどんどん参加しマラソンに親しむことができる大会です。

ボランティアはランナーとともに北海道マラソンの主役です。コース上の給水や沿道の自主警備、救護など4,000人以上のボランティアが大会を支えています。

<子どもたちとアスリートが触れ合う機会に>

=目標4 質の高い教育をみんなに

小学生を対象にした1kmのショートレース「ウイニングラン」が大会当日、札幌駅前通の特設コースで、フルマラソンスタートのあとに行われます。世界トップレベルのアスリートが躍動する舞台上、そのすばらしさを身近に感じてもらうことで、子どもたちのスポーツへの関心、意欲が高まることを願っています。



<沼田町の雪を使ってランナーをサポート>

=目標7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

25km地点に近い前田森林公園にはあらたにサポートエリアが設けられます。そこでは給食や給水のほかにアイシングに使える雪が提供されます。空知管内沼田町で貯蔵されている雪を運び込み、水から雪をつくるのではない環境にやさしいアイシングができます。



<環境に配慮した車両を競技に使用>

=目標7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

大会の先導車など大会には水素で走るトヨタの燃料電池車「MIRAI」が使われます。走行時にはCO₂を排出しないことで環境に配慮し、またコース沿道やテレビで観戦する人に環境保護をアピールしていきます。

<印刷物の削減・紙資源の節約>

=目標7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
目標12 つくる責任 つかう責任

2022年大会はWEBやメール、スマートフォンアプリの活用などで、紙資源の使用量を抑えます。給水につかう膨大な紙コップは、リサイクルすることで貴重な資源をむだにしません。クリーンで環境にやさしいマラソン大会を目指しています。

<地球環境にやさしい参加記念Tシャツ>

=目標12 つくる責任 つかう責任

ランナーの参加記念Tシャツは、回収した古着と繊維工場由来の糸くず（ポリエステル繊維）を化学的に分解して原料にした再生ポリエステル素材でできています。ランニングなどスポーツシーンに限らず普段使いにも適した着心地の良い仕上がりになっています。

<参加料の一部を寄付、地域の盛り上げ>

=目標17 パートナリシップで目標を達成しよう

北海道マラソンは参加料の一部をチャリティーとして北海道交通遺児の会、札幌市公園緑化協会、北海道新聞野生生物基金の3団体へ寄付します。また企業や大学、ボランティアなどさまざまなパートナーと連携し、マラソンを通じて北海道を盛り上げていきます。